魔医療連携通信

No.] 3

2023年12月発行



食道がんの約90%に胸腔鏡·腹腔鏡手術を実施 合併症が少ない低侵襲のロボット支援手術

▶ 東海大学医学部付属病院 消化器外科 教授 小柳 和夫

診療科トピックス 2

個々の胃がん症例に応じて術式を適切に選択 質の高いロボット支援・腹腔鏡・開腹手術を提供

▶ 東海大学医学部付属病院 消化器外科 准教授 鍋島 一仁

診療科トピックス 3

排尿障害などのリスク軽減につながる 直腸がんに対するロボット支援手術を導入

▶ 東海大学医学部付属病院 消化器外科 准教授 茅野 新

診療科トピックス 4

小児から高齢者まで幅広い呼吸器疾患に対応独自の胸腔鏡手術と「区域切除」で高実績

▶ 東海大学医学部付属八王子病院 呼吸器外科 教授 中川 知己

Doctor's Watch グレース皮膚科医院 (東京都八王子市) 南大沢フレスコ眼科 (東京都八王子市)

医療機関の皆様へ 診療科トピックス 1 [地域の医療連携を推進するための情報]

診療科トピックス

食道がんの約90%に胸腔鏡・腹腔鏡手術を実施 合併症が少ない低侵襲のロボット支援手術

● 東海大学医学部付属病院 ●

食道がんの手術適応については ロボット支援手術を積極的に実施

東海大学医学部付属病院消化器外科 (上部消化管 班・食道グループ) における2022年の食道がんの 治療実績は215例で、そのうち手術が70例、併せ て内視鏡治療、ステント挿入、化学療法、化学放射 線療法などを159例にわたって実施しています。

当科は日本食道学会の「食道外科専門医認定施 設」であるとともに、日本臨床腫瘍研究グループ (JCOG)の「認定参加施設 | として、食道疾患に対 する高度な医療の提供および標準治療の確立に貢献 しています。

近年、胸腔鏡手術や腹腔鏡手術は全国でも約50 %の食道がんに施行されていますが、当科の食道グ ループでは約90%の症例で実施し、なかでも現在 積極的に行っているのがロボット支援手術です。

食道がんに対するロボット支援手術は2018年4 月に保険収載となり、当科では準備期間を経た後、 2019年8月より開始しました。

現在、ロボット支援手術と胸腔鏡手術の比率はお よそ4:6という状況です。将来的には食道がんの 手術症例は原則、全例をロボット支援手術と考えて います。

ロボット支援手術の大きな特長は、従来の胸腔鏡

手術に比べて関節機能があることや、画像に立体感 があり視認性が良い点などが挙げられます。

術者が動かす手と鉗子の動きを調節できるモーシ ョンスケール機能、手ぶれを補正するフィルタリング 機能などによって、胸腔鏡手術では動作制限のあっ た動きが、ロボット支援手術ではスムーズにできる ため、特に高難度の手術において、このメリットが 強く発揮されています。

反回神経のまひ、縫合不全、 肺炎などの合併症リスクも軽減

食道という臓器は肋骨に覆われた狭い所にあり、 心臓、肺という重要な臓器が隣接しているため、胃 の手術に比べるとかなり不自由さがありました。

それがロボット支援手術の場合、前述したような機 能によって、空間が狭い中でもより精緻な手術が可 能になり、胸腔鏡手術の経験を積んできた医師ほど そのメリットを感じやすいといえます。

食道がんの手術では、根治性と同時に合併症をい かに少なくして機能を温存するかが重要です。声帯 を動かす反回神経のまひ、縫合不全、肺炎などの合 併症リスクがありますが、胸腔鏡手術では開胸手術 に比べて肺炎が減少したことが報告されています。

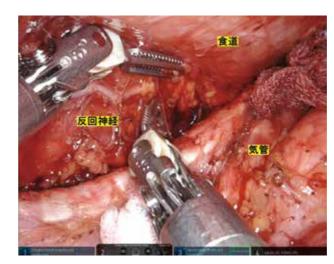
さらにロボット支援手術が積極的に実施されるよ

うになり、縫合不全のほか、特に反回神経まひの減 少が見られています。当科でもロボット支援手術を 始めた約4年間で、前半では9%程度あった反回神 経まひが後半にはO例になりました。ロボット支援 手術はこうした合併症の軽減にも十分寄与している と思われます。

術中の細かい操作が可能になるため、患者さんへ の侵襲を抑えられ、術後の在院日数が減るといった データもあり、良好な術後経過につながっているこ とが推測されます。

"診断から治療まで"をモットーに 早期がんから難治症例まで幅広く対応

当科では、難渋する進行がんに対して術前薬物療 法を行い、ダウンステージングによって切除可能に なった症例の手術にも積極的に取り組んでいます。



ロボット支援食道がん手術(東海大学医学部付属病院消化器外科 〈上部消化管班・食道グループ〉)

東海大学医学部付属病院 消化器外科 教授 小柳 和夫

「当科は1975年の開院以来、食 道がんの診療に力を入れてきた国 内屈指のハイボリュームセンターで す。さらに食道がんのみならず、食 道の良性腫瘍全般に対しても充実 した各種検査と診療をご提供して います。安心して患者さんをご紹介

専門領域: 食道がん、胃がんの外科治療、腹腔鏡手術、 ロボット支援食道がん手術、逆流性食道炎・ 食道アカラシアの外科治療、食道がん・胃が んの集学的治療、特発性食道破裂の外科治療

> 格:日本外科学会専門医·指導医/日本消化器 外科学会専門医:指導医/日本内視鏡外科 学会技術認定医/日本内視鏡外科学会口 ボット支援手術プロクター/日本食道学会 食道科認定医:食道外科専門医/日本消化 器内視鏡学会専門医・指導医/がん治療認 定医/消化器がん外科治療認定医/日本消 化管学会胃腸科専門医:指導医/新臨床研 修指導医/日本ロボット外科学会専門医

また食道がんに多い咽頭がんとの合併症例の手術は 耳鼻咽喉科、形成外科と連携しながら実施します。 各科に在籍するスペシャリストと協力することで、難 易度の高い手術が可能になるのも強みといえます。

食道がんはアルコールの過剰摂取、喫煙過多の人 が罹患しやすく、内臓疾患、心臓や肝臓、腎機能な どに問題を抱える人が多いことから内科的な管理が 重要です。近年は患者さんの高齢化によって併存症 がない人の方が珍しく、他科と連携する大学病院な らではの管理体制が大きな意味を持ちます。

当科では"診断から治療まで"をモットーに、早期 の食道がんから難治症例まで幅広く対応できるのが 大きな強みです。

地域の開業医の先生方と円滑な連携を進めて治療 することが患者さんにとって一番のメリットだと考え ていますので、どのような疾患についても遠慮なく ご相談ください。

ロボット支援手術 手術室の風景 (東海大学医学部付属病院 消化器外科)



da Vinci Xi の利点

1 立体視認性の向上 ■ 手ぶれ補正機能 2 多関節機能

4 モーションスケール機能



東海大学医学部付属病院 消化器外科(上部消化管班・食道グループ)

当科では食道の良性疾患、悪性疾患の診断から治療 までをシームレスかつタイムロスがないように行える体 制をとっています。近年のセンター化の流れとは異なり ますが、患者さんの多様な社会背景や高齢社会に際し て大学病院として必要な体制と考えています。

食道外科専門医取得者2名、食道科認定医取得者6 名と充実したスタッフが、患者さんの診療に誠心誠意 携わっています。その中でロボット支援手術は国内でも 有数の症例数で、ロボット手術の術者認定医 2名、助 手認定医5名体制で安全な手術を提供しています。

医療機関の皆様へ 診療科トピックス 2 [地域の医療連携を推進するための情報]

診療科トピックス

2

個々の胃がん症例に応じて術式を適切に選択 質の高いロボット支援・腹腔鏡・開腹手術を提供

● 東海大学医学部付属病院 ●

ロボット支援・腹腔鏡・開腹手術、 3つの術式を柔軟に選択できるのが特長

東海大学医学部付属病院消化器外科 (上部消化管 班・胃グループ)では、2020年9月からロボット支 援手術での胃がん切除を開始し、コンスタントに症 例を重ねてきました。

現在、胃がん手術については年間約80例のうち、 6割をロボット支援手術と腹腔鏡手術が占めていま す。神奈川県西部地域ではロボット支援胃切除術を 導入している医療機関が少ない中で、当科では同手 術の実施例は増加しています。

早期がんで合併症がない症例だけでなく、難易度 の高い手術や進行がんにも可能な限り低侵襲手術で あるロボット支援手術や腹腔鏡手術を適応し、患者 さんのQOL向上を目指しています。術式の選択にか かわらず、がんを根治するための手術クオリティを 同等に保つことができるのが当科の強みの1つと自 負しています。

また、後進の育成には以前からの腹腔鏡手術指導 を中堅・若手スタッフに積極的に行うだけでなく、ロ ボット支援手術や開腹手術についても丁寧な指導を 行っています。

患者さんの病状や進行度に合わせて、3つの術式 を柔軟に選択できる体制をとっているのが当科の特 長です。



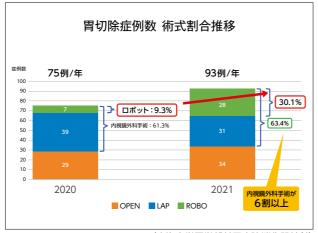
(東海大学医学部付属病院消化器外科)

ロボット支援手術は膵臓周囲の リンパ節郭清時のリスクを軽減できる

胃がんのロボット支援手術は胃のどの部位でも施 行が可能で、出口側の幽門側胃切除のほか、入り口 側の噴門側胃切除や胃の全摘術も行うことができま す。加えてロボット支援手術は鉗子の繊細な動きを 可能にするため、膵臓周囲のリンパ節郭清時に膵液 漏の合併症を低減し、入院期間も2週間から10日 間へと短縮しています。今後さらなるデータの集積 によって、長期予後に関する明確なエビデンスが確 立されることが予想されます。

半面、ロボット支援手術は触覚がない点がデメリ ットと言われますが、視野の中で臓器を動かし、テ ンションや硬さを慎重に目視することで克服できる と思います。また、さまざまなトラブルシューティン グを持ち寄って学会で議論するのも最近の話題であ り、将来的には触覚を搭載した技術が研究され、新 たな機器として出現してくることが期待されています。

一方、腹腔鏡手術については進行がんに対する長 期成績が明らかになり、2023年には、開腹手術に 対して5年生存率で劣らないことが発表されました。 従来はステージ1の早期がんのみの適応だったものが、 進行がんに対する腹腔鏡手術が可能になり、適応症 例についても大きく拡がっています。当科においても、 中堅・若手スタッフが日本内視鏡外科学会の技術認



(東海大学医学部付属病院消化器外科)

定の取得をめざして習熟に力を入れており、上部消 化管班・胃グループとしてのロボット支援手術の実施 態勢の拡充にもつなげていきたいと考えています。

胃粘膜下腫瘍(GIST)については 腹腔鏡と内視鏡の合同手術を実施

当科では粘膜下腫瘍 (GIST) の治療についても高 い実績があり、低侵襲で機能を温存できる腹腔鏡と 内視鏡の合同手術であるLECS (腹腔鏡内視鏡合同 胃局所切除術)を実施しています。腹腔鏡と内視鏡 を併用して胃を部分的に切除する術式で、大きさ 5cm 程度の胃粘膜下腫瘍などが適応です。

手術では消化器内科の医師が内視鏡で見ながら、 当科の医師が腹腔鏡で切除します。GISTはリンパ 節郭清の必要がないため胃の腫瘍部だけをくり抜く ように局所切除すればよく、胃の機能を十分温存す ることができます。最近では、大きなGISTに対して 術前に分子標的治療薬を投与し、腫瘍が縮小した後 にLECS等の手術を行っており、非常に稀な粘膜下 腫瘍に対しても集学的治療を行いQOLの高い胃局



ロボット支援腹腔鏡下幽門側胃切除術の1例目(2020年9月 17日、東海大学医学部付属病院消化器外科·上部消化管班)

東海大学医学部付属病院 消化器外科 准教授 鍋島 一仁

「胃がんに対するロボット支援手 術、腹腔鏡手術、開腹手術、そして 薬物療法と患者さんの病状に応じ た適切な治療を常に心がけなが ら、次世代のロボット支援手術な ど、新しいテクノロジーにも常に注 目し、積極的に取り入れていきたい と考えています」

専門領域:胃がんの外科治療、胃の腹腔鏡手術、胃の口 ボット支援手術、胃がんの抗がん剤治療、

GISTの治療

格:日本外科学会専門医·指導医/日本消化器 外科学会専門医·指導医/日本内視鏡外科 学会技術認定医/日本内視鏡外科学会口 ボット支援手術プロクター/日本消化器内 視鏡学会専門医:指導医/日本消化器病学 会専門医・指導医/がん治療認定医/消化 器がん外科治療認定医/日本消化管学会胃 腸科専門医・指導医/インフェクションコン トロールドクター (ICD) / 日本ロボット外 科学会専門医(国内B)

所切除手術を行っています。

また、ヘリコバクター・ピロリの除菌の影響で増 加する食道胃接合部がんについては、当科の上部消 化管班内で食道グループと緊密に連携し、境界部分 について慎重に適応を決めながら手術を行うことが できるのも当科の強みです。さらに抗がん剤治療も 当科で行っており、有効性の高い化学療法によって ステージ4以上の患者さんにも良好な結果が得られ るケースが増えています。あらゆる治療を駆使する 集学的治療が実践できるのも大学病院ならではの利 点だと考えています。

ここ数年は、コロナ禍で検診を受けなかったために、 胃がんが進行して見つかる患者さんが増えているこ とが全国的に問題となっています。病診連携、病病 連携など地域の医療機関との連携をさらに強めてい きながら、地域を支える"ラストホープ"であり続け ていく所存です。

東海大学医学部付属病院 消化器外科(上部消化管班・胃グループ)

主に胃がん、胃粘膜下腫瘍(GIST)を対象に、手術 や内視鏡治療、化学治療を行っています。胃をできる だけ温存すること、および手術侵襲の軽減を特長とし ており、術後の QOL は大幅に改善されています。

早期胃がんに対しては腹腔鏡手術、ロボット支援手

術を積極的に行い、開腹手術も含めた術式を病状に合 わせて選択しています。

また終末期の患者さんに対しては、緩和ケア内科と 連携をとりながら中心静脈栄養管理による在宅療養を 行っていることも特長の1つです。

医療機関の皆様へ 診療科トピックス 3 [地域の医療連携を推進するための情報]

診療科トピックス

3

排尿障害などのリスク軽減につながる 直腸がんに対するロボット支援手術を導入

● 東海大学医学部付属病院 ●

2022年1月よりロボット支援手術を導入。 週1回のペースで月間3~4例が可能に

東海大学医学部付属病院消化器外科(下部消化管 班・大腸グループ)では、年間約200例の大腸がん の手術を行っています。その中でロボット支援手術を 2022年1月より導入し、同年は17例を実施しました。

ロボット支援手術は直腸がんと結腸がんに対して 共に保険適応となっていますが、当科は現時点では 直腸がんに対してのみ行っており、適応に関しては、 年齢やステージ、既往症に関係なく実施しています。

ロボット支援手術の導入当初は第4世代にあたる 最新鋭機「ダヴィンチXill台のみの稼働のため、月 間2例のペースでしか手術を実施できませんでしたが、 2023年1月に2台目を導入し、月間4例の実施が 可能となりました。本年は9月までに昨年をすでに上 回る21例を実施しており、年間40例に到達する見 込みです。今後も積極的に症例を重ねていき、来年 度は結腸がんへの適応の拡大に努めていく所存です。

直腸がんの手術では、縫合不全などの リスクが男性に高い傾向にある

従来の開腹手術では、手術をしている場所がよく 見えないことがありました。腹腔鏡手術ではその欠



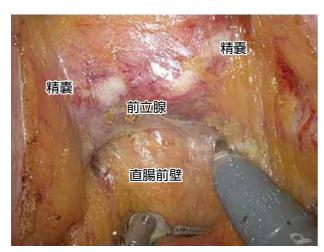
直腸がんのロボット支援手術の様子(東海大学医学部付属病院消化器外科) 直腸がん手術の様子

点をカメラが補い比較的よく見えるようになりまし たが、直線的な鉗子を用いるため、操作には制限が あり、手術手技の難易度が高くなりました。

ロボット支援手術は手術器械に手首のような関節 機能があり、また手ぶれが補正されることによって 細かい操作が直観的にできるようになっています。 また3Dの高精度拡大画像を見ながら手術を行える ことから、剥離層がよく見えて、切除すべき臓器と 温存すべき臓器の境が分かりやすくなっています。

直腸がんは狭い骨盤内にある直腸に生じる病変の ため、大腸がんの手術の中でも難易度が高いとされ ています。直腸がんの手術では、結腸がんの手術に 比べ重篤な合併症となる縫合不全が発生するリスク が高いですが、ロボット支援手術はその発生リスク を軽減できます。加えて術中の出血も少なく、患者 さんの体の負担の軽減につながります。さらに直腸 がんの場合、術後の後遺症である排尿障害や性機 能障害を防ぐことが重要ですが、ロボット支援手術 はそうしたリスクの軽減にもつながります。

がん治療においてもっとも重要な、がんを取り残 さない根治性については従来の腹腔鏡手術と遜色は ありません。ロボット支援手術は確実ながんの切除 に加えて、排尿機能や排便機能の温存、人工肛門の 回避などが期待できる手術方法であり、質の高い外 科治療を提供できます。

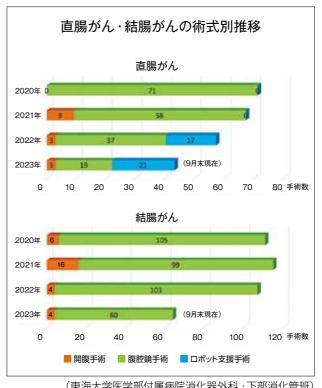


(東海大学医学部付属病院消化器外科)

ロボット支援手術はサージャンコンソールに向かっ て座って行えるため集中力が途切れにくく、また3本 のロボットアームとカメラを自分で動かすことによって、 術者の思いのままロボットを操ることができ、スト レスなく手術を行えます。医師にとってもメリットは 大きく、より精緻な手術を行うことができる要因の 1つといえるでしょう。

直腸がんの再発症例に対する 拡大手術も腹腔鏡手術で対応

当科では、直腸がんの再発症例を多く診ているの



(東海大学医学部付属病院消化器外科·下部消化管班)

東海大学医学部付属病院 消化器外科 准教授 茅野 新

「下部消化管班は、大腸がんをメイ ンに小腸から肛門に至る部位のあら ゆる疾患に対応しています。ごく早 期の大腸がんから他院で切除不能 と判断された症例でも、積極的に低 侵襲のロボット支援手術や腹腔鏡手 術を実施しています。難治症例につ いてはぜひ当科へご相談くださいし

専門領域:大腸がん・大腸疾患の外科治療、腹腔鏡手 術、ロボット支援大腸がん手術、大腸がんの 集学的治療、大腸がんに対する内視鏡的治療

格:日本外科学会専門医·指導医/日本消化器外 科学会専門医·指導医/日本大腸肛門病学 会専門医·指導医/日本消化器内視鏡学会専 門医·指導医/日本消化器病学会専門医·指 導医/日本消化管学会胃腸科専門医:指導医 /日本がん治療認定医機構がん治療認定医 /日本内視鏡外科学会技術認定医 (大腸)/ da Vinci Console Surgeon取得

も強みの1つです。直腸がんの再発症例では、骨盤 内臓器全摘術という膀胱ならびに子宮や前立腺を摘 出する手術や、場合により仙骨の一部も切除する超 拡大手術になりますが、こうした手術においても腹 腔鏡による低侵襲手術を積極的に行っており、他院 からの紹介も年々増えています。

また潰瘍性大腸炎やクローン病などの良性疾患に おいては腹腔鏡手術を第一選択とし、さらに憩室や がんなどの原因による大腸穿孔で救急対応しなけれ ばならない緊急手術も、腹腔鏡により低侵襲に手術 を行っています。

大学病院の特性上、高齢者や心臓・呼吸機能など の併存症がある方も多いですが、麻酔科などと連携 して安全で適切な手術を行っています。

また当科では、手術から化学療法までのすべてを 行っていますので、患者さんの状態にかかわらず、 早期がんから遠隔転移を伴う進行がんまで幅広くご 相談ください。

東海大学医学部付属病院 消化器外科(下部消化管班・大腸グループ)

直腸がん・結腸がんに対して、がんの根治性を保ち ながら痛みや苦痛を最小限にとどめ、患者さんの早期 社会復帰を図るために低侵襲性治療法である腹腔鏡手 術やロボット支援手術を積極的に行っています。

局所の高度進行下部直腸がんや遠隔転移を伴う大腸

がんに対しては、術前治療を施行し、治療成績の向上 をめざしています。潰瘍性大腸炎やクローン病といっ た炎症性腸疾患や大腸憩室症などの良性疾患などに対 しては、低侵襲性・整容性を追求し、原則腹腔鏡手術 を第一選択としています。

医療機関の皆様へ 診療科トピックス 4 [地域の医療連携を推進するための情報]

診療科トピックス

小児から高齢者まで幅広い呼吸器疾患に対応 独自の胸腔鏡手術と「区域切除」で高実績

● 東海大学医学部付属八王子病院 ●

患者さんの負担を軽減するため 低侵襲な胸腔鏡手術を積極的に行う

東海大学医学部付属八王子病院呼吸器外科は、 肺、縦隔、胸膜、胸壁など胸部の外科疾患において 小児から高齢者まで患者さんの年齢層は幅広く、主 な疾患は、肺がん、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、自 然気胸、良性肺腫瘍、急性膿胸などが挙げられます。

手術においては、症例に応じて標準開胸あるいは 胸腔鏡手術を臨機応変に選択していますが、東海大 学医学部付属病院呼吸器外科の岩崎正之教授が開 発した「二窓法 (two windows method) |をはじめ、 「4ポート」「IW&IP法」など(下図参照)、小さな皮 膚切開創のみで行う低侵襲な胸腔鏡手術を積極的に 行っています。

これらの術式は従来の開胸創と比較すると、手術 時間、術中出血量、術後の疼痛や呼吸機能の回復 の面でも優れており、高齢者はもちろん、早期の社 会復帰を望む働き盛りの世代にも恩恵をもたらすと 考えています。胸腔鏡は傷が小さく癒着が起きにく いため、将来的に2回目、3回目の手術が必要にな った場合も、多くは胸腔鏡での手術が可能です。

また、対応可能な医療機関が少ない、小児呼吸器 外科疾患に高い実績があるのも特色の1つです。

先天性の肺疾患や小児肺悪性腫瘍に対する胸腔鏡 手術は拡大した視野で見ることができるため、安全 性が高いというメリットがあり、これまで非常に多く の症例に対し手術を行っています。

加えて当科の強みでもある漏斗胸の治療では、金 属製のバーを胸の陥凹部の側面より挿入し、陥凹部 を挙上する「Nuss法」という低侵襲な術式を用いて います。

肺機能を温存する「区域切除」は 早期がんや高齢患者さんに最適

肺がんは国内および世界でも罹患数、死亡数が多 いがんであり、治療が困難な難治がんの1つでもあ ります。

肺がんの手術では、1つ以上の肺葉と周囲のリン パ節を取り除く 「肺葉切除術」が標準治療として行わ れていますが、平均余命の伸長に伴って罹患年齢の 高齢化が進み、肺機能温存の重要性が認識されてい ます。

当院では、再発を避けることと患者さんの術後 QOLを保つことのバランスを考慮して、一人ひとり に合わせた治療を提供しています。

その中で肺がんの縮小手術に力を入れており、標

胸腔鏡下手術 (IW&IP法)



東海大学医学部付属八王子病院で採用している低侵襲手術の主な術式



小児の漏斗胸の術前と術後。金属製 のバーで陥凹部を挙上する低侵襲な 術式「Nuss 法」を採用している。

準手術とされる肺葉切除より小さな区域のみを切除 する 「区域切除 | に焦点をあて、主にリンパ節転移の ない早期のがんや持病のある高齢の患者さんを対象 に行ってきました。

早期の肺がんや小さな病変に対して、肺をどの程 度切除するのが適切かについては以前から議論が続 いていましたが、近年では2cm以下の早期肺がん に対して切除範囲がより小さな区域切除の有用性が 証明され、ガイドラインにおいての推奨度も上がっ てきました。そのため、これまでの肺葉切除に加え、 区域切除が標準治療の1つとして確立されれば、よ り肺機能温存に配慮した外科治療の提供が可能にな ると考えられます。

さらに近年では、肺がんの遺伝子検査を行い、遺 伝子に変異があるか否かの性質を調べることで、有 効な治療薬が選定できるようになってきました。当 科においても、手術、放射線療法、化学療法を組み



山田俊介特任教授(前列右)を中心にした東海大学医学部付属八 王子病院呼吸器外科のスタッフ。



東海大学医学部付属八王子病院 呼吸器外科 教授 中川 知己

「クリニック、基幹病院との連携を 重視しており、さまざまな患者さん の幅広い病態に対応しています。手 術が必要な症例はもちろん、そのほ か呼吸器に関連する疾患・症状で お困りのことがありましたら何でも ご相談ください」

専門領域: 呼吸器外科学全般、肺がん、小児呼吸器外科

(漏斗胸)

格:日本外科学会専門医·指導医、日本呼吸器外 科学会専門医、日本がん治療認定医機構が

ん治療認定医

合わせた集学的治療を推進しているところです。

呼吸器に関連する症例はすべて受け入れ 先進医療と地域医療の両立をめざす

一般に、大学病院などの大病院では、例えば肺が んの患者さんの治療は内科で検査を行い、診断確 定後、手術のみ外科が担当し、化学療法は再度内科 で行うといった流れが多いかと思います。

その点当科では、初診から呼吸器外科が担当して いき、それぞれの患者さんに最適な手術療法や薬物 療法などの治療を提供し、術後の補助化学療法や 再発症例への化学療法までを一貫して行っています。 患者さんのことを一番知っている主治医が、場合に よってはターミナルケアまでを行うことをコンセプト にしているのが特徴です。

また当科は、多摩地区の呼吸器外科の中で受け入 れ患者数はトップクラスで、他院で断られるような症 例も呼吸器に関するものはすべて受け入れ、ほかの大 学病院からも重症患者さんの紹介をいただいています。

今後はロボットサージェリーも視野に入れるなど 大学病院として先進医療に取り組むとともに、地域 に根ざした医療との両立を図り、より高度で安全な 医療を提供していきます。

東海大学医学部付属八王子病院 呼吸器外科

肺、縦隔、胸壁、横隔膜などの胸部全般の外科的疾 患を扱っています。治療の中心は肺がん、転移性肺腫瘍、 縦隔腫瘍などの腫瘍性病変に加えて、気胸などの外科 手術も行っています。

手術に際しては高度な胸腔鏡手術により低侵襲な手 術を実施するとともに、化学療法、放射線療法、気管 支鏡検査、CTガイド下生検に関しても各科との協力の もと先進医療を提供しています。



当院は2013年に、私の生まれ育った地であ る八王子で開院した皮膚科クリニックです。JR 八王子駅から徒歩約3分の立地にあり、地元に お住まいの高齢者やお子さん、仕事帰りの方な ど幅広い年齢層の患者さんが来院されます。

日頃から保険診療を中心にした医療を重視し、 自由診療はあくまでも補完的な位置づけです。 ニキビや乾燥肌、アトピー性皮膚炎や乾癬など の疾患を数多く診ていますが、例えばニキビの 治療で痕が消えにくい場合などに、自由診療を 追加する形でご要望にお応えしています。

2018年4月にアトピー性皮膚炎に対して生物 学的製剤による治療が保険適応になり、当院で も実施しています。加えて、乾癬に対する同治 療も当院で提供することが可能です。

私は、母校の東海大学医学部付属病院に勤務 医として在籍していた当時から乾癬について専 門的に研鑽を積み、現在は東海大学医学部付属 八王子病院で毎週水曜に乾癬外来を担当するな ど、乾癬治療は当院の強みの1つです。同病院 は日本皮膚科学会の生物学的製剤使用の承認 施設でもあり、当院の乾癬の患者さんを私が同 病院で治療できる連携体制があるのは患者さん にとってもメリットが大きいと思います。

そのほか、多汗症の治療にイオントフォレーシ スも導入しています。多汗症の部位を水道水に浸



手足の多汗症の治療にイオントフォレーシスも導入

し、弱い電流を流して発汗を抑制する方法で、こ うした保険診療の質を高めることで、低リスクで 安心度の高い医療を提供したいと考えています。

近年、近隣の靴屋さんと連携して、足裏のたこ やうおのめに悩む患者さん向けに予防のための インソールを個別に提供する取り組みも始めまし た。地域とのさまざまなコラボレーションも含め、 今後も幅広く患者さんに貢献していきます。

グレース皮膚科医院

東京都八王子市中町 4-3 二葉ビル2階 TEL.042-645-5060 https://grace-hihuka-iin.net 診療科目 皮膚科

初診 9:45~12:00 14:45~17:00 再診 9:45~12:30 14:45~17:30 ※火曜日午後の再診は完全予約制 休診日水曜、十曜午後、日曜·祝日 〈八干子市医師会所属〉



南大沢フレスコ眼科は1998年に八王子市南 大沢で開院したクリニックです。私は東海大学 医学部付属八王子病院に常勤医として在籍して いた2015年から当院に勤務しており、前院長 の引退に伴って2019年に継承しました。

当院は多摩ニュータウンの住宅地の一角にあ り、ファミリー層の患者さんのほか、住宅開発 と同時にこの地域に来られた方など高齢の患者 さんが多く来院されています。白内障や緑内障、 糖尿病網膜症などの慢性疾患を中心に、「地域 の目のかかりつけ医しとして一人ひとりに寄り添 う医療を提供しています。

白内障は、コロナ禍が落ち着いて来院しやす くなったこともあり、手術を希望される患者さん が増えている印象です。私は今も東海大学医学 部付属八王子病院で診療を调に1回行っており、 手術の際には同病院で私が執刀を担当し、術後 の診察を当院で継続して行う態勢をとっています。

1泊2日または日帰りでの手術を调に3~4件 のペースで行い、緊急性の高い患者さんには迅 速に実施するなど、同病院を通じて柔軟な対応 ができています。

緑内障の手術や加齢黄斑変性に対する硝子 体注射などの専門性の高い治療は、東海大学医 学部付属八王子病院に紹介しています。特に同 病院には緑内障を専門にする先生がおられ、困 ったときに相談しやすい環境があるので心強い です。

南大沢は小学校が多いエリアで、近年はコロ ナ禍もあり、スマートフォンやタブレットの過度 の使用による近眼の子どもが増えていると感じ ます。当院では日頃から地域に根差した活動も 積極的に行っており、八王子市医師会の主導に よる学校医のほか、学校保健委員会との連携な どを通じて子どもたちに向けた啓発活動にも注 カしています。

今後は高齢患者さんに向けた往診などの必要 性も視野に入れながら、より地域密着の度合い を高めた医療を展開していくことも考えたいと 思います。

どんな些細なことも相談でき、治療できる「地 域の目のかかりつけ医しとして頼られる存在とな ることを目標に、力を尽くしていきます。

南大沢フレスコ眼科

東京都八王子市南大沢 2-27 フレスコ南大沢ビル4階 TEL.042-670-0170

https://minamiosawa-ganka.jp

診療科目 一般眼科 · 小児眼科

診療時間 9:00~12:30 14:45~18:00

※土曜日は9:00~13:00

休診日水曜、土曜午後、日曜·祝日

〈八干子市医師会所属〉

Think Ahead, Act for Humanity



東海大学 医療連携通信 No.13(2023年12月発行)

発行責任者/東海大学医学部付属病院 病院長 渡辺雅彦本誌の内容は 2023年12月現在の情報に基づいています。詳細は、各病院にお問い合わせください。

東海大学医学部付属東京病院

〒 151-0053 東京都渋谷区代々木 1-2-5

TEL: 03-3370-2321 (代表)

https://www.tokyo-hosp.tokai.ac.jp/

お問い合わせ先 ▶ 医療連携室 TEL: 03-5333-3066 (直通) FAX: 03-3379-1287 (直通)





▲ 病院のご案内





東海大学医学部付属八王子病院

TEL:042-639-1111 (代表)

お問い合わせ先 ▶ 事務部事務課 TEL: 042-639-1111 (代表) 予約について ▶ 医療連携室 TEL: 042-639-1114 (直通) FAX: 042-639-1115 (直通)

〒 192-0032 東京都八王子市石川町 1838

https://www.hachioji-hosp.tokai.ac.jp/

▲ 病院のご案内

▲ 外来診療担当表

東海大学医学部付属病院

〒 259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋 143

TEL:0463-93-1121(代表)

https://www.fuzoku-hosp.tokai.ac.jp

お問い合わせ先 ▶ 医療連携室 TEL: 0463-93-8495 (直通) FAX: 0463-93-1125 (直通) メール: renkei@tsc.u-tokai.ac.jp





▲ 病院のご案内

▲ 外来診療担当医一覧